

この度は、統合開発環境 CubeSuite+をご使用いただきまして、誠にありがとうございます。

この添付資料では、本製品をお使いいただく上での制限事項および注意事項等を記載しております。ご使用の前に、必ずお読みくださいますようお願い申し上げます。

目次

第1章	対象デバイスについて.....	2
第2章	アンインストール時の選択キーワード.....	3
第3章	変更点.....	4
3.1	不具合修正.....	4
第4章	注意事項.....	5
4.1	W052304 メッセージが出力される場合の注意事項 [C/C++コンパイラ].....	5
4.2	MVTC,POPC命令を使用する場合の注意事項 [アセンブラ].....	5
4.3	DELETEオプションをリンク時に指定する場合の注意事項 [最適化リンケージエディタ].....	5
第5章	制限事項.....	6
5.1	PID機能ご利用に関する制限事項 (NOUSE_PID_REGISTERオプション).....	6
5.2	C++言語(EC++含む)でMATH.Hの一部関数(FREXP,LDEXP,SCALBNおよびREMQUO)を使用する場合の制限事項.....	7
5.3	標準ライブラリのご利用に関するご注意 【V1.02.00 ~V1.02.01 からリビジョンアップされたお客様】	8
5.4	PIC/PID機能ご利用に関する制限事項 (PICおよびPIDオプション).....	9
5.5	旧バージョン (V1.00.xx) から移行したプロジェクトのビルドについて -- (Lセクションの警告 W0561120 およびエラーW0563100).....	9
5.6	以下のオプションを廃止しました【C/C++コンパイラ】.....	10
5.7	C/C++ソースレベルデバッグに関する注意事項【C/C++コンパイラ】.....	10
5.8	拡張子だけが異なるソースファイル名を複数指定する場合の注意事項【C/C++コンパイラ】...	10
5.9	0xFFFFFFFF番地を含むセクションを記述する場合の注意事項【アセンブラ】.....	10
5.10	-FORMと-OUTPUTオプションを同時に使用する場合の注意事項【リンク】.....	11
5.11	_BUILTINから始まる関数名を使用する場合の注意事項【C/C++コンパイラ】.....	11
5.12	INSTALIGNオプションまたは#PRAGMA INSTALIGN8 が有効な関数に対する注意事項【C/C++コンパイラ】.....	11
5.13	SAVE_ACCが有効な#PRAGMA INTERRUPT指定された関数が仮引数を持つ場合の注意事項【C/C++コンパイラ】.....	11
第6章	添付標準ライブラリについて.....	12
6.1	添付ライブラリ一覧.....	12
6.2	ライブラリ指定の方法.....	13

第1章 対象デバイスについて

CC-RX がサポートする対象デバイスに関しては、WEB サイトに掲載しています。

こちらをご覧ください。

CubeSuite+製品ページ：

<http://japan.renesas.com/cubesuite+>

第2章 アンインストール時の選択キーワード

本製品をアンインストールする場合は、2つの方法があります。

- ・ 統合アンインストーラを使用する(CubeSuite+自体をアンインストールする)
- ・ 個別にアンインストールする(本製品のみをアンインストールする)

個別にアンインストールを行なう場合、コントロールパネルの

- ・ 「プログラムの追加と削除」(WindowsXP の場合)
- ・ 「プログラムと機能」(Windows Vista, Windows 7 の場合)

から、「CubeSuite+ CC-RX V2.00.01」を選択してください。

第3章 変更点

本章では、CC-RX の変更点について説明します。

3.1 不具合修正

以下の不具合を修正しました。

- (1) ループの繰り返し回数がソースの記述と異なる場合がある注意事項
- (2) -optimie=0, -debug, -schedule のオプションをすべて設定した場合の注意事項

第4章 注意事項

本章では、CC-RX の注意事項について説明します。

4.1 W052304メッセージが出力される場合の注意事項 [C/C++コンパイラ]

C 標準ヘッダをインクルードしたファイルを C++または EC++コンパイルしたとき、int_to_short オプションを指定すると W052304 メッセージが出力されることがあります。この場合は動作には問題ありませんので無視してください。

【注意】

C++および EC++コンパイル時は、int_to_short オプションの指定は無効になります。

C と C++(EC++)との間で共通にアクセスするデータは、int 型ではなく long 型または short 型で宣言してください。

4.2 MVTC,POPC命令を使用する場合の注意事項 [アセンブラ]

アセンブリ言語において、MVTC,POPC 命令に対してプログラムカウンタ(PC)は指定できません。

アセンブラでの割り込み関数を記述する場合には、r1 レジスタの退避/復帰を行ってください。

4.3 deleteオプションをリンク時に指定する場合の注意事項 [最適化リンケージエディタ]

delete オプションで指定した関数シンボルが削除された場合、削除された関数定義の次の関数定義の関数名に対して、デバッグ時にエディタ上でブレークポイントを設定することができません。ラベルウィンドウからブレークポイントを設定するか、関数のプログラム行で指定してください。

第5章 制限事項

本章では、CC-RX V2.00.00 の制限事項について説明します。

5.1 PID機能ご利用に関する制限事項 (nouse_pid_registerオプション)

PID 機能を利用するとき、マニュアルに従って、マスターに含まれる全てのファイルに nouse_pid_register を指定すると、下記をアセンブルする際にエラーが発生します。

- (1) PID レジスタにアドレスを代入するプログラム
- (2) 標準ライブラリ(ライブラリジェネレータ lbgrx に指定)

【(1)の制限について】

PID レジスタにアドレスを代入するその機能だけをひとつの C ソースもしくはアセンブラファイルにして、-nouse_pid_register を指定せずにコンパイルまたはアセンブルしてください。そして、他のマスターのファイル(-nouse_pid_register 付き)とリンクして利用してください。

【(2)の制限について】

次の(a)(b)いずれかの方法で対応ください。

- (a) 標準ライブラリをマスターではなくアプリケーションに収録する
 - ・ジャンプテーブル(8.4.2(2)参照)を利用する必要はありません。
 - ・ライブラリジェネレータ lbgrx に pid オプションを指定して標準ライブラリを作成してください。

(b)標準ライブラリをマスターに配置する場合

- (i) ライブラリジェネレータ lbgrx に nouse_pid_register オプションをつけずに標準ライブラリを作成してください。
- (ii) 作成したジャンプテーブルを、次の例に従って、全てのエントリの JMP R14 を変更してから使用してください。

例) _printf エントリの変更

[変更前]

```
_printf:
    MOV.L #0ffff90cfH,R14 ; アドレス 0ffff90cfH は例です。
    JMP R14
```

[変更後]

```
_printf:
    MOV.L #0ffff90cfH,R14
    PUSH.L R13 ; PID レジスタが R13 の場合
    JSR    R14
    POP   R13 ; PID レジスタが R13 の場合
    RTS
```

5.2 C++言語(EC++含む)でmath.hの一部関数(frexp,ldexp,scalbnおよびremquo)を使用する場合の制限事項

C++/EC++コンパイル時に、math.hの一部の関数(frexp,ldexp,scalbn,remquo)の実引数をint型にすると、実行時に無限ループとなるオブジェクトが生成されます。

発生条件:

次の条件(1)(2)を全て満たす場合が該当します。

- (1) C++ソース(拡張子が.cpp)または、-lang=cpp オプションが有効である。
- (2) math.h をインクルードして、以下の関数をそれぞれの条件で呼び出している。
 - (a) frexp(double, long *) の第2引数の値を (int *)型とする
ただし、第1引数が float 型で、-dbl_size=8 オプション指定時を除く
 - (b) ldexp(double, long) の第2引数の値を int 型とする
ただし、第1引数が float 型で、-dbl_size=8 オプション指定時を除く
 - (c) scalbn(double, long) の第2引数の値を int 型とする
ただし、第1引数が float 型で、-dbl_size=8 オプション指定時を除く
 - (d) remquo(double, double, long *) の第3引数の値を (int *)型とする
ただし、第1または第2引数が float 型で、-dbl_size=8 オプション指定時を除く

発生例:

```
[file.cpp]
// C++ソースとしてコンパイルした場合に無限ループになる例
#include <math.h>
double d1,d2;
int i;
void func(void)
{
    d2 = frexp(d1, &i);
}
```

[コマンドライン例]

```
ccrx -cpu=rx600 -output=src file.cpp
```

[file.src] ソース出力例

```
_func:
    ; ... (中略)
    BSR __$frexp__tm__2_f__FZlZPi_Q2_2l_Real_type__tm__4_ZlZ5_Type ; frexpの代替関数を呼ぶ
    ; ... (中略)

__$frexp__tm__2_f__FZlZPi_Q2_2l_Real_type__tm__4_ZlZ5_Type:
L11:
    BRA L11 ; 再帰呼び出しになってしまう
```

回避策:

次のいずれかの方法で回避できます。

- (1) -lang=c を指定し、C言語としてコンパイルする。

- (2) 引数の int および int* を long および long* に変更する。
 (3) math.h の後に、使用する関数ごとに定義を追加する。

```

/* frexp 関数の場合 */
static inline double frexp(double x, int *y)
{ long v = *y; double d = frexp(x,&v); *y = v; return (d); }

/* ldexp 関数の場合 */
static inline double ldexp(double x, int y)
{ long v = y; double d = ldexp(x,v); return (d); }

/* scalbn 関数の場合 */
static inline double scalbn(double x, int y)
{ long v = y; double d = scalbn(x,v); return (d); }

/* remquo 関数の場合 */
static inline double remquo(double x, double y, int *z)
{ long v = *z; double d = remquo(x,y,&v); *z = v; return (d); }

```

回避策(2)の例

[file.cpp] の変更例

```

#include <math.h>
double d1,d2;
int i;
void func(void)
{
    long x = i; /* 一旦 long 型変数で受ける */
    d2 = frexp(d1, &x); /* long 型変数で呼び出し */
    i = x; /* i に値を設定 */
}

```

回避策(3)の例

[file.cpp] の変更例

```

#include <math.h>
/* 宣言を追加 */
static inline double frexp(double x, int *y)
{ long v = *y; double d = frexp(x,&v); *y = v; return (d); }
double d1,d2;
int i;
void func(void)
{
    d2 = frexp(d1, &i);
}

```

5.3 標準ライブラリのご利用に関するご注意

【V1.02.00 ～V1.02.01からリビジョンアップされたお客様】

V1.02.00 で標準ライブラリをご利用のお客様の場合、V1.02.01 以降にリビジョンアップ後は、環境変数 TMP_RX を V1.02.00 とは異なるディレクトリに変更してご利用いただくようお願いいたします。これは、ライブラリジェネレータ lbgrx は、ライブラリ作成時の中間結果を TMP_RX が示すディレクトリに保存し、次のライブラリ作成時に再利用するためです。

この対応を行わない場合、lbgrx が生成する標準ライブラリが、リビジョンアップした環境で生成したライブラリになりません。

なお、統合環境 CubeSuite+ をご利用の場合は、次の対応を行ってください。

【統合環境(CubeSuite+)で標準ライブラリをご利用の場合の対応手順】

次の(1)~(3)の手順を、V1.02.01 にリビジョンアップ後に 1 回実施ください。

(1) コマンドプロンプトを開きます。(以降、コマンドプロンプト上で作業を行います。)

(2) コマンドラインで `dir %TEMP%*.pgl` を実行し、次のような、数字とアルファベットの並びを持ち、かつ拡張子が `.pgl` というファイルがひとつまたは複数表示されることを確認してください。

例) `dir %TEMP%*.pgl` の表示結果

```
2011/08/09 15:47 825,346 8000040080100000225a40409694ab0200000000.pgl
```

(3)で表示されたファイルの個数だけ、次のように `del` コマンドを使ってファイルをひとつずつ削除してください。

例) ファイルを削除するコマンドの例(1 ファイル分)

```
del %TEMP%8000040080100000225a40409694ab0200000000.pgl
```

【ご参考】

手順(2)で、拡張子 `.pgl` のファイルが手順(2)の例で示した形式以外に表示されていない場合は、次のように一括して削除することもできます。

例) ファイルを一括で削除するコマンドの例

```
del %TEMP%*.pgl
```

5.4 PIC/PID機能ご利用に関する制限事項 (picおよびpidオプション)

ライブラリジェネレータ `lbrgrx` に `pic` または `pid` オプションを指定して、標準ライブラリを作成することができますが、その際に、次の警告が 1 回または複数回表示されます。

```
C1301 (W) "-pic" option ignored (pic オプションを指定した場合)
```

```
C1301 (W) "-pid" option ignored (pid オプションを指定した場合)
```

これらの警告は、EC++ライブラリに対して、`pic`, `pid` オプションが無効になるため出力されます。

5.5 旧バージョン (V1.00.xx) から移行したプロジェクトのビルドについて -- (Lセクションの警告W0561120 およびエラーW0563100)

V.1.01 よりも古いコンパイラパッケージで作成した High-performance Embedded Workshop のプロジェクトを、V1.02.00 のプロジェクトに変換して使用すると、次の警告およびエラーを発生することがあります。

```
W0561120 Section address is not assigned to "L"
```

```
W0563100 Section address overflow out of range : "L"
```

この場合は、本書「5.ヘルプ、マニュアル修正項目」の「■ 9.4.1 V.1.00 との互換性 / (2) Lセクション追加について(section オプション、Start オプション)」の内容に基づき、(a)または(b)の方法で対策してください。

【備考】

本パッケージに含まれる CubeSuite+で、V.1.01 よりも古いプロジェクト (RX Toolchain 1.0.0.0 ~ 1.0.0.2) を V1.02.00 またはそれ以降に変換した場合は、自動的に(b)を行いますので、この現象は発生しません

5.6 以下のオプションを廃止しました【C/C++コンパイラ】

(a) -file_inline, -file_inline_path

指定しても警告を表示し無効となります。代替手段としては、ソース中に#includeを記述してください。C(C99含む)の場合は、同様の機能を持つmerge_filesも使用できます。

(b) -enable_register

指定しても無視されます。指定の有無による生成コードの変化はありません。

5.7 C/C++ソースレベルデバッグに関する注意事項【C/C++コンパイラ】

(1) -debugオプションを指定しても、次の行に対しては、デバッガでブレークポイントの設定やステップ実行で停止ができない場合があります。

- ・ グローバル変数の動的な初期化式(C++)
- ・ 次のような関数の先頭行

#pragma inline_asm が指定されているループ文(do文,while文など)から始まり、かつauto変数を持たない関数の先頭行。

(2) 共用体型かつレジスタ渡しである仮引数のメンバが、ウォッチウィンドウ等で誤った値が表示される場合があります。

5.8 拡張子だけが異なるソースファイル名を複数指定する場合の注意事項【C/C++コンパイラ】

ccrx ccrx コマンドに-output=abs と複数のソースファイルを指定する場合、ソースファイル名の拡張子以外が同じファイル名を含むと、内部エラーが発生します。

例) ccrx -output=abs file.c file.src

E0511200:Internal error(505).

5.9 0xffffffff番地を含むセクションを記述する場合の注意事項【アセンブラ】

アセンブリソース中に同じセクション名に対する.org 制御命令を含む.section 制御命令が複数あり、これらが互いに0xffffffff番地で重複している場合、アセンブル時に内部エラー(C0554098)が発生します。

例)

```
.section SS,ROMDATA
.org 0fffffffh
.byte 1
.byte 2 ; 0xffffffff
.section SS,ROMDATA
.org 0fffffffh
.byte 3; ; 0xffffffff
.end
```

5.10 -formと-outputオプションを同時に使用する場合の注意事項【リンカ】

リンカ(rlink)に、-form=rel と-output=出力ファイル名を共に指定したとき、出力ファイル名の拡張子が無視され、常に.rel に置き換わります。

例) rlink -form=relocate -output=DefaultBuild¥lib_test.lib

出力ファイルを test.lib とすべきところが test.rel になります。

5.11 _builtinから始まる関数名を使用する場合の注意事項【C/C++コンパイラ】

include ディレクトリ内の machine.h に記述のある _builtin から始まる関数名をソースコードで宣言した場合、内部エラーになることがあります。アンダーバー(_)から始まる名前は予約されていますので、お客様のソースコードには記述しないでください。

5.12 instalignオプションまたは#pragma instalign8 が有効な関数に対する注意事項【C/C++コンパイラ】

関数A,Bを続けて定義し、関数Aで最後に実行行が関数Bへの呼び出しであるソースコードがある場合、次のいずれかの場合に、アセンブラでエラーが発生する場合があります。

- ・ -instalign=8 を指定してコンパイルしている
- ・ 関数 B に対して#pragma instalign8 が指定されている

5.13 save_accが有効な#pragma interrupt指定された関数が仮引数を持つ場合の注意事項【C/C++コンパイラ】

#pragma interrupt で指定された関数で、save_acc フラグが有効(-save_acc オプション指定時を含む)な場合、生成コードが R4 で渡される仮引数を正常に取得できない場合があります。

注意) #pragma interrupt で指定された関数に仮引数を定義することは、推奨しておりません。

第6章 添付標準ライブラリについて

本章では、RX ファミリ C/C++コンパイラ 添付標準ライブラリについて説明します。

本製品では、RX600 用に標準ライブラリファイル(*.lib)を4種類添付しています。

添付の標準ライブラリファイルを使用することにより、ビルドに要する時間を短縮することができます。

6.1 添付ライブラリー一覧

本製品に添付される、標準ライブラリファイルの一覧を表1に示します。

【ご注意】

ライブラリで選択している「マイコンオプション」は、ご使用のコンパイラオプションと一致させる必要があります。いずれとも一致しない場合は、これらの標準ライブラリは使用できませんので、ご利用のコンパイラオプション(アセンブラオプション)をライブラリジェネレータに指定して、作成されるライブラリをご使用ください。

ライブラリ名	用途	最適化*2 オプション	マイコンオプション *1 *2		
			-endian	-cpu -rtti -exception -noexception	その他 *3
rx600lq.lib	RX600、速度優先 リトルエンディアン	-speed -goptimize	-endian=little	-cpu=rx600 -rtti=on -exception	-round=nearest -denormalize=off -dbl_size=4 -unsigned_char -unsigned_bitfield -bit_order=right -unpack -fint_register=0 -branch=24
rx600ls.lib	RX600、サイズ優先 リトルエンディアン	-size -goptimize			
rx600bq.lib	RX600、速度優先 ビッグエンディアン	-speed -goptimize	-endian=big		
rx600bs.lib	RX600、サイズ優先 ビッグエンディアン	-size -goptimize			

表1 ライブラリー一覧

*1 マイコンオプションは、統合開発環境ユーザーズマニュアル RX ビルド編の「B.1.3 オプション」「(1)コンパイル・オプション」「マイコンオプション」を参照ください。

*2 CubeSuite+のビルド設定により、これらのオプションがどのように設定されているかを確認するには、統合開発環境ユーザーズマニュアル RX ビルド編の「A.1 説明」「プロパティ パネル」の「共通オプション」タブ - [CPU]および「コンパイル オプション」タブ - [最適化]を参照ください。

*3 これらのオプション選択は省略時設定と同じです。

6.2 ライブラリ指定の方法

添付の標準ライブラリファイルを使用する場合は、6.2.2 または 6.2.3 の方法でリンクしてください。

6.2.1 ライブラリの格納場所

統合開発環境のインストール先が C:\Program Files\Renesas Electronics\CubeSuite+ の場合:

C:\Program Files\Renesas Electronics\CubeSuite+\CC-RX\V2.00.01\Lib

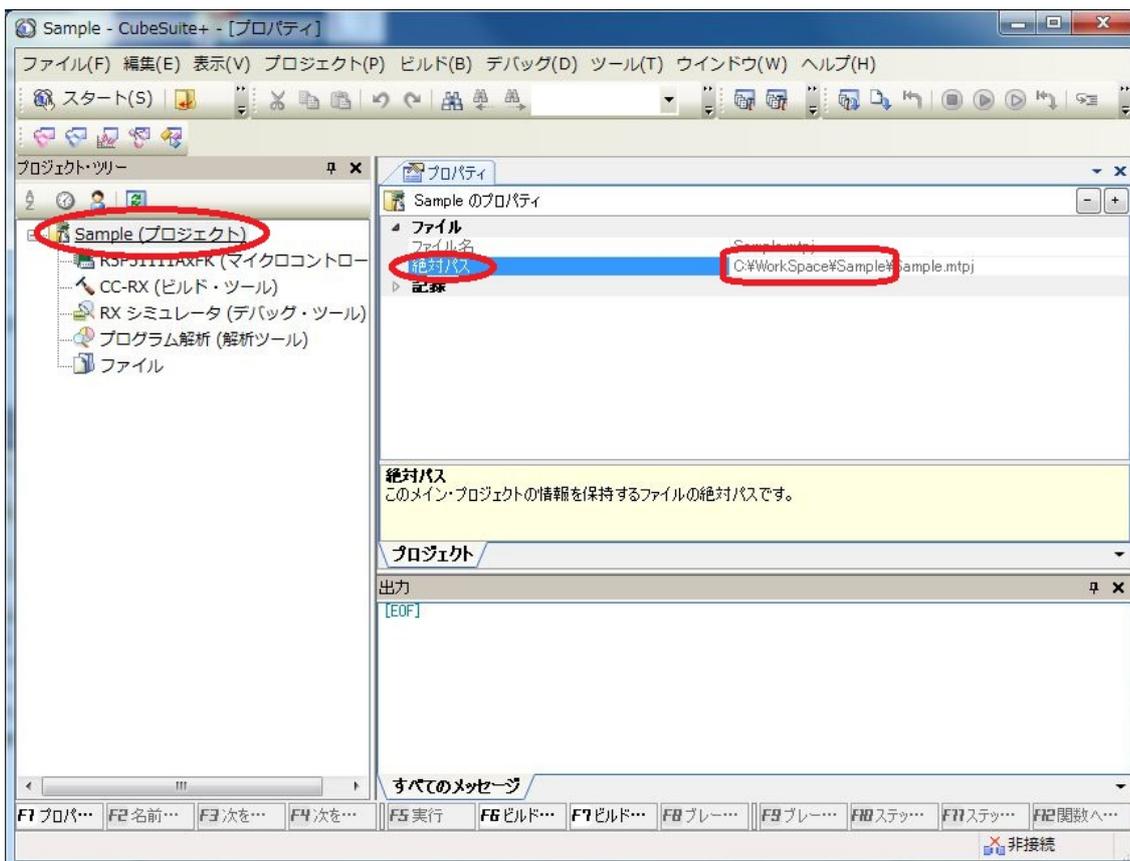
(V2.00.01 は、コンパイラパッケージのリビジョンにより異なります。)

6.2.2 CubeSuite+から選択する場合

ご使用のプロジェクトに対して、ライブラリを選択する手順を説明します。

- (1) プロジェクトを開きます。
- (2) ご使用のプロジェクトの設定を確認し、表 1 からライブラリを選択してください。
- (3) プロジェクトディレクトリを確認します。

プロジェクト・ツリーウィンドウの「(プロジェクト)」を選択して、右クリックメニューの「プロパティ」を選択して表示されるプロパティウィンドウにて絶対パスを確認します。



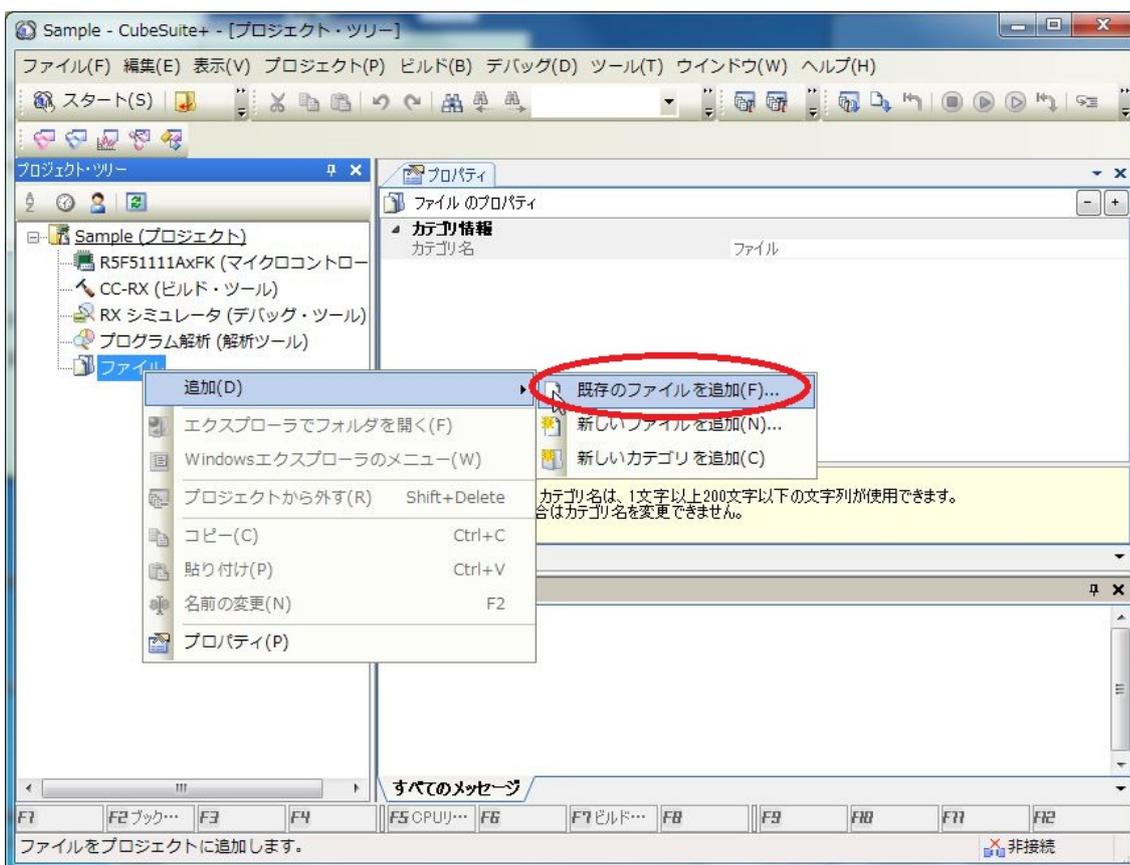
この表示で、拡張子が .mtpj であるファイルの格納場所がプロジェクトディレクトリです。

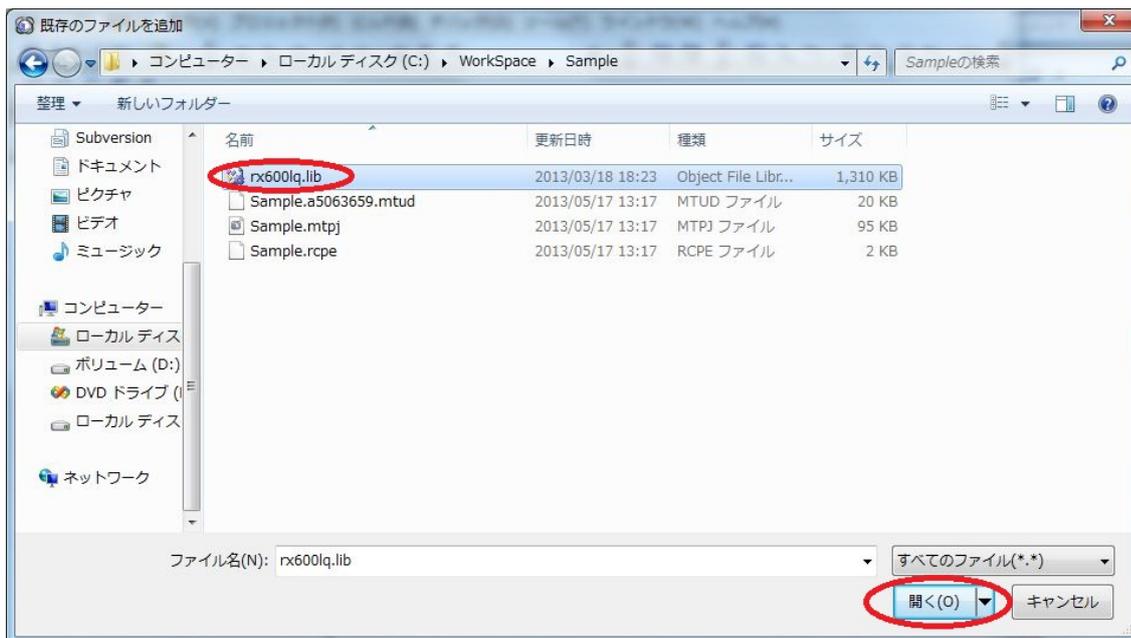
- (4) (2) で選択したライブラリファイルを、上記 6.2.1 の格納場所から、プロジェクトディレクトリにコピーしてください。

[コマンドプロンプトによる手順 (4) の実行例]

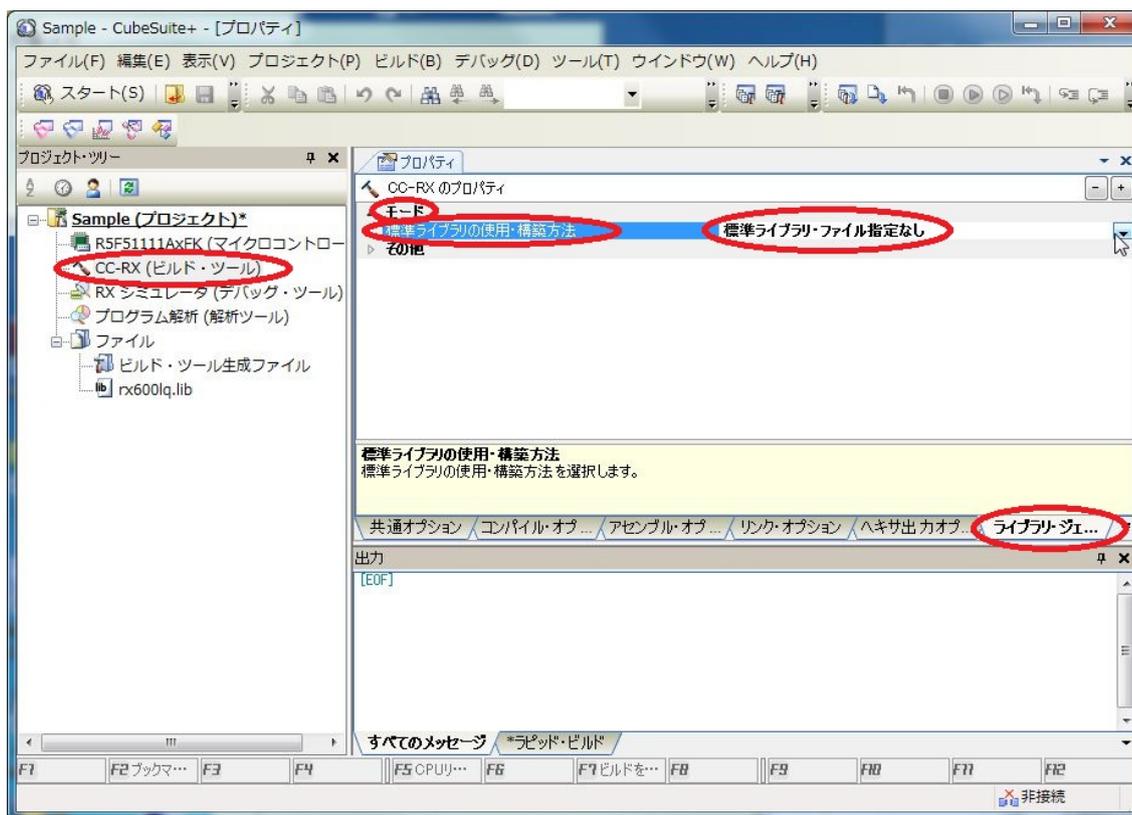
```
copy "C:\Program Files\Renesas Electronics\CubeSuite+CC-RX\V2.00.01\lib\rx600lq.lib" C:\WorkSpace\sample
```

- (5) プロジェクト・ツリーウィンドウのファイルを選択して、右クリックメニューの「追加」－「既存のファイルを追加」を選択してください。
- (6) (4) でコピーしたライブラリファイルを選択し、「開く」ボタンを押します。





- (7) プロジェクト・ツリーの「CC-RX(ビルド・ツール)」 を選択します。
- (8) 「ライブラリ・ジェネレート・オプション」 タブを選択します。
- (9) 「モード」の標準ライブラリの使用・構築方法をプルダウンメニューで「標準ライブラリ・ファイル指定なし」を選択します。



これでプロジェクトの設定は完了です。

ビルドすれば、(6)で選択したライブラリがリンクされます。

6.2.3 最適化リンケージエディタに直接指定する場合

製品に含まれているライブラリファイルを、上記 6.2.1 の格納場所から、任意のディレクトリにコピーしてください。

次に、最適化リンケージエディタの Library オプションにコピーしたライブラリファイルを指定して、リンクしてください。

すべての商標および登録商標は、それぞれの所有者に帰属します。

ご注意書き

1. 本資料に記載された回路、ソフトウェアおよびこれらに関連する情報は、半導体製品の動作例、応用例を説明するものです。お客様の機器・システムの設計において、回路、ソフトウェアおよびこれらに関連する情報を使用する場合には、お客様の責任において行ってください。これらの使用に起因して、お客様または第三者に生じた損害に関し、当社は、一切その責任を負いません。
2. 本資料に記載されている情報は、正確を期すため慎重に作成したのですが、誤りがないことを保証するものではありません。万一、本資料に記載されている情報の誤りに起因する損害がお客様に生じた場合においても、当社は、一切その責任を負いません。
3. 本資料に記載された製品データ、図、表、プログラム、アルゴリズム、応用回路例等の情報の使用に起因して発生した第三者の特許権、著作権その他の知的財産権に対する侵害に関し、当社は、何らの責任を負うものではありません。当社は、本資料に基づき当社または第三者の特許権、著作権その他の知的財産権を何ら許諾するものではありません。
4. 当社製品を改造、改変、複製等しないでください。かかる改造、改変、複製等により生じた損害に関し、当社は、一切その責任を負いません。
5. 当社は、当社製品の品質水準を「標準水準」および「高品質水準」に分類しており、各品質水準は、以下に示す用途に製品が使用されることを意図しております。
標準水準： コンピュータ、OA機器、通信機器、計測機器、AV機器、家電、工作機械、パーソナル機器、産業用ロボット等
高品質水準： 輸送機器（自動車、電車、船舶等）、交通用信号機器、防災・防犯装置、各種安全装置等
当社製品は、直接生命・身体に危害を及ぼす可能性のある機器・システム（生命維持装置、人体に埋め込み使用するもの等）、もしくは多大な物的損害を発生させるおそれのある機器・システム（原子力制御システム、軍事機器等）に使用されることを意図しておらず、使用することはできません。たとえ、意図しない用途に当社製品を使用したことによりお客様または第三者に損害が生じて、当社は一切その責任を負いません。なお、ご不明点がある場合は、当社営業にお問い合わせください。
6. 当社製品をご使用の際は、当社が指定する最大定格、動作電源電圧範囲、放熱特性、実装条件その他の保証範囲内でご使用ください。当社保証範囲を超えて当社製品をご使用された場合の故障および事故につきましては、当社は、一切その責任を負いません。
7. 当社は、当社製品の品質および信頼性の向上に努めていますが、半導体製品はある確率で故障が発生したり、使用条件によっては誤動作したりする場合があります。また、当社製品は耐放射線設計については行っておりません。当社製品の故障または誤動作が生じた場合も、人身事故、火災事故、社会的損害等を生じさせないよう、お客様の責任において、冗長設計、延焼対策設計、誤動作防止設計等の安全設計およびエージング処理等、お客様の機器・システムとしての出荷保証を行ってください。特に、マイコンソフトウェアは、単独での検証は困難なため、お客様の機器・システムとしての安全検証をお客様の責任で行ってください。
8. 当社製品の環境適合性等の詳細につきましては、製品個別に必ず当社営業窓口までお問合せください。ご使用に際しては、特定の物質の含有・使用を規制するRoHS指令等、適用される環境関連法令を十分調査のうえ、かかる法令に適合するようご使用ください。お客様がかかる法令を遵守しないことにより生じた損害に関して、当社は、一切その責任を負いません。
9. 本資料に記載されている当社製品および技術を国内外の法令および規則により製造・使用・販売を禁止されている機器・システムに使用することはできません。また、当社製品および技術を大量破壊兵器の開発等の目的、軍事利用の目的その他軍事用途に使用しないでください。当社製品または技術を輸出する場合は、「外国為替及び外国貿易法」その他輸出関連法令を遵守し、かかる法令の定めるところにより必要な手続を行ってください。
10. お客様の転売等により、本ご注意書き記載の諸条件に抵触して当社製品が使用され、その使用から損害が生じた場合、当社は何らの責任も負わず、お客様にてご負担して頂きますのでご了承ください。
11. 本資料の全部または一部を当社の文書による事前の承諾を得ることなく転載または複製することを禁じます。

注1. 本資料において使用されている「当社」とは、ルネサスエレクトロニクス株式会社およびルネサスエレクトロニクス株式会社とその総株主の議決権の過半数を直接または間接に保有する会社をいいます。

注2. 本資料において使用されている「当社製品」とは、注1において定義された当社の開発、製造製品をいいます。



ルネサスエレクトロニクス株式会社

■営業お問合せ窓口

<http://www.renesas.com>

※営業お問合せ窓口の住所・電話番号は変更になることがあります。最新情報につきましては、弊社ホームページをご覧ください。

ルネサス エレクトロニクス販売株式会社 〒100-0004 千代田区大手町 2-6-2（日本ビル）

(03)5201-5307

■技術的なお問合せおよび資料のご請求は下記へどうぞ。
総合お問合せ窓口：<http://japan.renesas.com/contact/>